

『建築学構造シリーズ 建築構造力学』 第1版第1刷正誤表（2011年5月11日）

連番	章	ページ	位置	本文	側注	誤		正	備考
1	はしがき	iii	下から10行 3)の段落	○		状態だと思う.	→	状態だと思う).	括弧「」をつける.
2	目次	ix	11.1ダイバージェンスの定理	—	—	11.1 236		11.1 ダイバージェンスの定理236	節の場合ある「.....」がない.
3	第1章 構造力学の基礎	15	下から9行	○		未定定数法	→	未定乗数法	
4		15	下から6行	○		未定定数法	→	未定乗数法	
	第2章 建築構造力学の概要						→		
	第3章 ニュートン力学						→		
	第4章 構造物のモデル化と対象とする部材						→		
5	第5章 力の釣合い	61	例5.1の問題文	○		m	→	n	
6		70	図5.25 左側上から3つ目の図の左端	○		M ₂	→	M ₁	添え字2を1に替える.
7		70	右下の側注の下から7行目		○	変位を生じて	→	変位Δを生じて	Δを追記.
8		75	図5.30の右側の図	○					Pxの矢印の高さ位置を部材軸線に合わせる.
9		77	(iii)の文章	○		モーメント	→	曲げモーメント	
10		78	図5.31(c)	○					斜めの矢印Pの角度を表示する円弧をC点に近づけ、角度表示と分かるようにする.
11		81	図5.33(c)	○					曲線①～④～Bの上部の縦線ハッチを削除する. ただし、②～④～③を結ぶ縦直線は残す.
12		107	下から2行目の式中	○		$R \cdot \frac{\ell}{2\sqrt{2}}$	→	$\frac{R}{\sqrt{2}} \cdot \frac{\ell}{2}$	$\sqrt{2}$ の位置を変える.
13		109	側注最下行の図		○				左端のNの矢印を左向きとする.
14		114	1行目	○		DF材	→	DE材	
15		118	図5.49(f)	○					p.119の図(f)と同じ寸法表示とする.
16		118	図5.49(g)	○					B支点をローラーとする.
17		119	解答 演習5.1の図(h)	○					A支点のH ₀ とその矢印をB支点に移動する.
18		120	図5.51(a)中	○		80kN・m	→	80kN	・mを削除する.
19		120	図5.51(a)中	○					B支点をローラーとする.
20		122	演習5.4(c)の左上の図中	○					C点の○を削除する.
	第6章 ひずみと変位の関係						→		
21	第7章 応力とひずみの関係と断面諸量	154	例7.2	○		例7.2	→	例7.3	以後、すべて番号の振りなおしが必要.
22		154	例7.3	○		例7.3	→	例7.4	
23		155	例7.4	○		例7.4	→	例7.5	
24		156	例7.5	○		例7.5	→	例7.6	
25		156	例7.6	○		例7.6	→	例7.7	
26		156	例7.7	○		例7.7	→	例7.8	
27		159	例7.8	○		例7.8	→	例7.9	
28	第8章 梁のたわみの算定	169	割注 (6)集中荷重の項	○		—P	→	$\boxed{-P}$	Pの上に「—」をつける.
29		171	側注		○	(1)–Eiv”		(1)–Eiv”	γをvにする.
30		176	式(8.42)の一番下の式	○		w*	→	$w^*(t)$	(t)を追加.
	第9章 たわみ角法						→		
	第10章 固定法						→		
31	第11章ダイバージェンスの定理	236	下から13行		○	ひずみや断面	→	ひずみや断面力	力を追加.
32		237	下から3行	○		w(x)*	→	w*(x)	*の位置変更.
33		238	側注 定積分の項		○	上から下へ	→	下から上に	
34		249	側注の式		○	f(x)		f(x)	プライム「'」をつける.
35		251	図11.13 あるいは本文	○					材長がlであることを明記.
36		252	図11.14(a), (b)	○					点Aの「A」を追記.
37		255	図11.16	○					(b–1)のローラを梁につける.
38		256	上から9行の式	○			→	(11.83)	式番号を追加.
39		259	側注 τ (γ)の式		○	GA	→	A	「G」を削除.
40	第12章 仕事の原理	275	式(12.19) 2段目の式	○		積分の上限の「1」	→	/	l(イチ)から l (エル)へ. 1箇所
41		277	式(12.29)上式	○		積分の上限の「1」	→	/	l(イチ)から l (エル)へ. 2箇所
42		280	図12.11(a–1)				→		Pを追加.
43		281	図12.13(b–1)				→		h○を示す線を追加.
44	第13章 エネルギーの原理	319	上から5行	○		発散定理より	→	ダイバージェンスの定理より	11章と文言統一.
45		319	上から7行	○		発散定理より	→	ダイバージェンスの定理より	11章と文言統一.
46		321	参考文献[10]	○		久一朗	→	久一郎	
47	第14章 近似解法	324	側注 δ vの式		○		→		この式では、δ φ =0となるので変更.
48		327	式(14.21)	○		EivIVx)	→	EivIV (x)	左括弧をつける.
49		346	引用文献[6]	○		久一朗	→	久一郎	